

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 8 月 13 日(2024.8.13)

【公開番号】特開 2023-74813(P2023-74813A)
【公開日】令和 5 年 5 月 30 日(2023.5.30)
【年通号数】公開公報(特許)2023-099
【出願番号】特願 2021-187947(P2021-187947)
【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 5/04 6 0 3 D

A 6 3 F 5/04 6 0 3 B

A 6 3 F 5/04 6 1 1 B

【手続補正書】
【提出日】令和 6 年 8 月 1 日(2024.8.1)
【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項 1】

出音可能な出音手段と、

前記出音手段を制御する演出制御手段と、

遊技者による操作に応じて前記出音手段における音量を設定可能な音量設定手段と、
を備え、

前記音量設定手段は、全体音量を設定可能であり、複数種類のサウンドの音量を個別に設定可能である

30

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記出音手段は、

前記音量設定手段によって全体音量を設定する場合、遊技者の操作に応じて、前記複数種類のサウンドのうち特定種類のサウンドを出力可能であり、

前記音量設定手段によって前記複数種類のサウンドの音量を個別に設定する場合、遊技者による操作に応じて、前記複数種類のサウンドのうち個別に設定を行った種類のサウンドを出力可能である

ことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

40

【請求項 3】

図柄の変動表示が可能な図柄表示手段を備え、

前記図柄の変動表示状態においては、遊技者の操作に応じた前記音量設定手段による音量設定を行えない

ことを特徴とする請求項 2 に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

50

従来からガイドメニュー画面を表示装置に表示させて、左右キーなどの入力部を操作することで音量や光量を所望の量に設定することが可能な遊技機が知られている（例えば、特許文献１参照）。特許文献１に記載されたような遊技機によれば、遊技者が好みの音量や光量などの演出環境を設定できるというメリットがある。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００３】

【特許文献１】特開２００８－２９５５５１号公報

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００４】

ところで、特許文献１に記載されているような演出環境を設定できる遊技機では、演出環境の設定に関して遊技者の利便性を高めることが望まれている。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００５】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、演出環境の設定に関して遊技者の利便性を高めることを目的とする。

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

出音可能な出音手段と、（例えば、スピーカ３５ａ、３５ｂ）と、前記出音手段を制御する演出制御手段（例えば、副制御回路２００）と、遊技者による操作に応じて前記出音手段における音量を設定可能な音量設定手段（例えば、音量を設定するサブＣＰＵ２０１）と、を備え、

前記音量設定手段は、全体音量を設定可能であり、複数種類のサウンドの音量を個別に設定可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００８】

上記構成によれば、演出環境の設定に関して遊技者の利便性を高めることができる。

10

20

30

40

50